

## 2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	細野 助博		
NAME	Sukehiro Hosono		

## 1. 研究課題

（和文）大震災後のコミュニティデザインの必要性と実効性

（英文）Needs and Availability of Community Design after the Diseases in East Japan

## 2. 研究期間

2年間

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）

大震災後の復旧・復興を伴う地域活性化にとって、コミュニティの存在が重要であることの認識が深まっている。直接の被害地でなくとも、防災・減災の観点から地域内の自助・共助・公助にコミュニティの強靭さがいかに有効であるかが基礎値自体のレベルから都道府県、国のレベルにおいても共通認識になりつつある。しかし、都市化の進展が普遍化している今日、コミュニティ機能の著しい低下が懸念されている。

災害のみでなく、日常発生する多種多様な問題の解決にあたって、行政への依存度はコミュニティの衰退している地域ほど高くなっている傾向が観察される。したがって都市化によって意識は高いが紐帯が弱体化しつつある地域において、コミュニティをどうデザインし強化すべきか喫緊の課題ともなっている。この種の問題意識をいち早く持った先進地域の事例研究を主に、地域にあったコミュニティづくりの実践的研究を進めることによって、政策上の知見を得ることを目的とする。

（英文）

We have a common knowledge on the importance of community to avoid natural serious diseases and to reduce its heavy damages after the Earthquake and Nucleon Meltdown Accident in 2011.

It is clear that community is a core substance to concentrate social cooperation in regional areas. So we must focus to the community movement to absorb the serious shocks induced by the Natural Diseases and Human Errors happened on 3.11.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<b>【学術論文】</b> （著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）
細野助博、見過ごされがちな「決め方」の理論、改革者、査読無、53巻9号、p6~9、2012.9
細野助博、モラルと競争、流通とシステム、査読無、152号、p.61、2012.11
細野助博、6次産業は市街地活性化のカギ、流通とシステム、査読無、153号、p.79、2013.1
細野助博、豊穰と貧困が両存する悲劇、流通とシステム、査読無、155号、p.59、2013.7
細野助博、人間性を取り戻す「スタイルシフト」の時代が到来、オムニマネジメント、査読無、22巻8号、p.16-19、2013.7
細野助博、新しい商店街時代の幕開けと行政の役割、プラクティス、査読無、14号、p.4-5、2014.1
<b>【学会発表】</b> （発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）
<b>【図 書】</b> （著者名、出版社名、書名、刊行年）
細野助博、時事通信社、まちづくりのスマート革命—主張するまちだけが生き残る、2013年
細野助博、中央大学出版部、新たなローカルガバナンスを求めて、2013年
<b>【その他】</b> （知的財産権、ニュースリリース等）